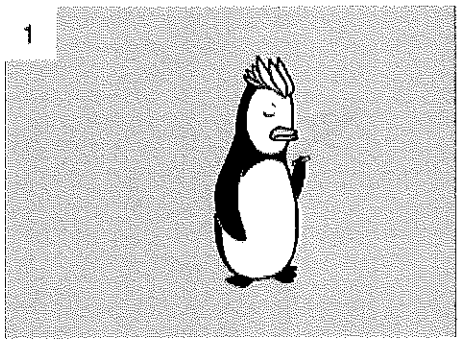
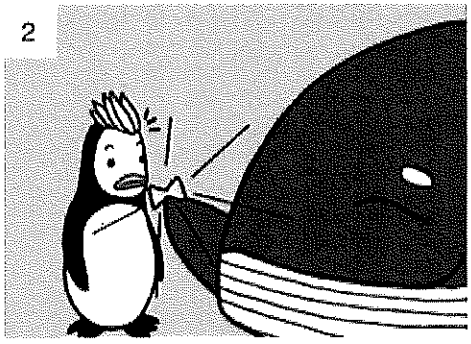
小田原市社会を明るくする運動
中学生作文コンテスト
入賞作文集

1



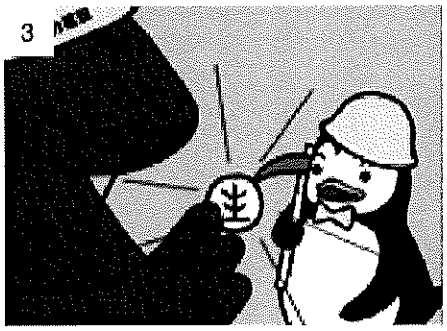
2



昔のボクは，悪いことばかりする非行ペンギンでした。

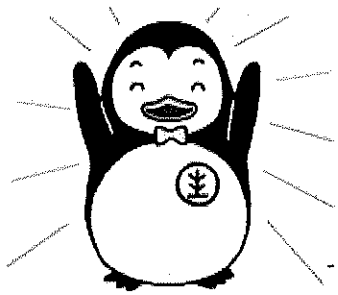
でも，保護司のクジラ先生や，

3



協力雇用主のアシカ親方のおかげで，

4



立ち直りました！
更生ペンギンです！

第７３回小田原市社会を明るくする運動推進委員会

はじめに

第73回小田原市社会を明るくする運動推進委員会　委員長　守屋輝彦

「社会を明るくする運動」は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更正について理解を深め、それぞれの立場で力を合わせ、犯罪や非行のない安全で安心な地域社会を築こうとする全国的な運動です。その運動の一環として毎年度開催される「社会を明るくする運動作文コンテスト」について、小田原市社会を明るくする運動推進委員会としても、運動の推進を図るため、平成23年度から独自に優れた作品を審査し表彰しております。

今年度は市内中学校7校、111名の生徒の皆さんから応募をいただき、中でも優れた作品については表彰し、入賞作文集を発行する運びとなりました。ご協力をいただきました中学校関係者の皆様、とりわけ熱心なご指導をいただいた先生方、並びに生徒さんとその保護者の皆様に、心から感謝を申し上げます。

いずれの作品も、安全で安心な地域社会の実現を希求する子どもたちの真摯な思いを存分に伝えていますが、世相を見つめる子どもたちの新鮮な感性には、時に一種の頼もしさすら感じます。ご紹介する12作品は、特に社会を明るくする運動の趣旨を理解し、運動の推進に貢献するものです。この小冊子を手に取られた方々が、子どもたちの視点を通して改めて社会を見直し、地域や家族の在り方を語り合う一助としていただければ幸いです。

目　次

最優秀作品

・小さな力、やがては地域の力　小田原市立鴨宮中学校　三年　内藤　千帆里　・・・1頁

優秀作品

・犯罪の減少と更生について　小田原市立城南中学校　三年　上平　朱莉　・・・4頁
・人とのつながり　小田原市立千代中学校　三年　神尾　静　・・・7頁
・挨拶と明るい社会の関係　小田原市立泉中学校　三年　清水　杏奈　・・・9頁
・「ありがとう」で社会を明るくする　小田原市立城北中学校　三年　吉田　愛実　・・・12頁

佳作作品

・挨拶の大切さ　小田原市立白山中学校　三年　小野　誠太朗　・・・14頁
・犯罪者の社会復帰に向けて　小田原市立城南中学校　三年　脇　なずな　・・・16頁
・挨拶が日本を救う　小田原市立鴨宮中学校　三年　村山　壮介　・・・19頁
・一言の重みを考えよう　小田原市立千代中学校　三年　小酒部　夢叶　・・・21頁
・生きやすい社会とは？　小田原市立国府津中学校　三年　藤澤　美緒　・・・23頁
・ちょっとした悩みごと　小田原市立国府津中学校　三年　山内　楓音　・・・25頁
・挨拶をすることで　小田原市立泉中学校　三年　和泉　圭祐　・・・27頁

最優秀作品

「小さな力、やがては地域の力」

小田原市立鴨宮中学校
三年　内藤　千帆里

私は今年の夏、胸がほっこりとする経験をした。

六月終わりに、自治会の夏祭りが四年ぶりに開催されると回覧板で知りました。コロナ禍になった小学校六年生の頃から自治会行事も縮小され、私も中学生になり生活リズムが変わったことも重なり、地域とかかわることが減っていました。夏祭りの復活の知らせには内心ワクワクしました。私は前回の夏祭りはボランティアスタッフとして参加をしました。今年の開催を聞いた時に絶対にボランティアスタッフで参加したいと強く思い、近所の同級生と当然のように応募しました。前回は小学生の時の記憶だが、とても楽しくて達成感があり、またやりたいという思いがなぜか強く残っていたからです。

お楽しみの夏祭りは夏休みの最初の週末に開催されました。私は同級生と地域のおじさん、おばさんと四人で飲み物販売の担当になりました。準備をしている間、私は地域のおばさんに声を掛けられました。「ずいぶん背が高くなったね。」と、それはその方だけでなく、会う人会う人に何度も言われました。声をかけてもらい私は嬉しくなりました。そして、「内藤さん、これお願いできる？」と中学生の私に言ってくれたのです。なんだか頼ってもらえた気がして、心の中にまるで焼き芋があるようなホカホカした気分になりました。

私は家族に内弁慶だと言われます。慣れている人とは話せるのですが、そうではないとなかなか会話が続かず、申し訳なくなります。そして、目を合わせて話をされても、目をそらしてしまいます。ですが、地域のおじさん

やおばさんはそれでも話しかけてくれました。
いざ夏祭りが始まると会場は地域の人たちであふれました。顔見知りの人だけでなく初めて会う人も、色々な人が「暑いけど頑張ってね。」と声を掛けてくれました。その日は日中から天気が良く、隣の売り場では炭をたいていて暑かったので、そのさりげない言葉で頑張ろうと思えました。
今年の夏祭りは今まで見たことがない程に人が集まりました。私の住む地区はこのコロナ禍の間に数十軒の転入者がありました。私が小学生の頃は児童が合わせても三十人いたかどうかでしたが、今は七十数名もいるそうで、一気に倍になりました。地域活動がなかったため、お祭りで初めて大人数になった小学生に会い、その賑わいに驚きました。驚かされた私ですが、十年前に私がこの地区に越してきた時、地域の人たちが新しくきた私たちを笑顔で迎えてくれたことを思い出しました。高齢化が進んだ地域に子供が増えたと喜んでくださり、地域の行事には色々なことをして楽しめるようにしてくれました。大きくなったねと声をかけてくれるおじさんやおばさんたちは、私がこの地区に越して来た時から、私たちの成長を見てくれている人たちなのです。まだ保育園生だった私が中学生になり、身長も伸びて、久しぶりに私の姿をみて驚くと同時に、ボランティアの参加を喜んでくれていました。
夏祭りでは新しい住民の方たちは家族で参加しており、皆楽しんでいる様子でした。
後日、反省会が開かれました。私は予定があり欠席でしたが、出席した母に聞くと、反省点や改善点など、昔からの住民も新しく来た住民も皆が楽しく参加できるようにと、たくさん意見を出し合っていたそうです。
私はこの地区に住み始めてから両親に「ここはあなた達のふるさとになるところだから地域の人たちとたくさんかかわりなさい。」とよく言われてきました。最近その意味が分か

ったような気がします。小学校を卒業した時に、通学路で毎朝見守りをしてくれたおじさんに、近所の同級生と一緒に見守りのお礼を伝えに行きました。おじさんとは今でも道で会うと挨拶をしますし、季節になると庭で採れたミカンを届けてくれたりします。親戚でもないし、なぜそんなことをしてくれるのかなと思うのですが、両親には考えてごらんと言われ、答えは教えてもらえませんでした。

しかし、夏祭りで地域の人たちと関わり、気づきました。難しいことではなく、地域の人たちと一緒に何かをすることが大事なのではないか。持ちつ持たれつと言いますが、できないことはできる人がやり、互いに助け合うことが大切なのだと思いました。

私は内弁慶なので堂々とはいかないが、これからも地域の人たちや活動を気にかけ、顔を見せたいです。そして、私も相手を思うさりげない言葉が心からかけられる人になりたいです。皆でそれができたら、とても穏やかな社会になるはずです。

優秀作品

「犯罪の減少と更生について」

小田原市立城南中学校
三年　上平　朱莉

犯罪とは何だろう。犯罪という言葉を国語辞典で調べると「法律や人として守らなければならないことに背いたことを行うこと」という意味だった。ここから、事実として犯罪はよくない行いだということが分かった。では、犯罪を減少させること、罪を犯した人の更生にはどんなことが大切だろうか。私は四つのことが大切だと思う。

一つ目は人と関わることだ。人と関わることで学んだことは私自身たくさんある。友人とすれ違うときに交わされる笑顔や挨拶、困っている人を手伝ったときの「ありがとう」という言葉で、疲れているときも頑張ろうと思えるようになった。また、私が困っている時に周りの人が声をかけてくれたり、悩んでいる時に寄り添ってくれたりしたことが抜け出せない暗い気持ちを軽くする助けになった。犯罪をしてしまうのは、独りで抱え込んでしまっていることが原因になっていると思うので、人と関わることが暗い気持ちを軽減し犯罪の減少につながると思う。

二つ目は自分の周りに悪いことをしたら叱る人がいることだ。最近の学校の先生はあまり生徒のことを叱れない。それは生徒の親がクレームを入れたり、生徒自身が病んでしまったりするからだ。また、それがすぐ話題になってしまうので学校側も慎重になっていると思う。しかし、過ちは絶対注意する必要があると思う。また、私はそこで叱られることが重要だと思う。私は小さいころから悪いことをしたらよく叱られた。叱られることで、自分の悪い行為としっかり向き合い反省することができたと思う。また、叱られることでよいこととよくないことの区別がしっかりつ

けられるようになり、物事を進めるとき「これは本当に大丈夫か」と思いとどまることができるようになる。他にも、自分のメンタルを強められるので落ち込み過ぎない、抱え込み過ぎないようになる。しかし、過度に叱られることはストレスになってしまうので、叱る人の力量が大切だ。つまり、適度に叱られることは自分で考える力を養うこととメンタルを強くする効果があるので罪を犯す前に思いとどまることができたり、すぐに悪い方向に気持ちをもっていかないようにできたりするので犯罪を減少できると思う。

三つ目は更生した人を受け入れる社会をつくることだ。更生した人を見て、周りの人が「あの人犯罪者だよ」とひそひそ噂をする社会だと、罪を犯してしまった人が更生しようとは思わなくなってしまうと思う。また、人は誰でも失敗してしまうけれどやり直しが効く。もし失敗しても、その失敗と向き合い、反省して成長していくことができる。悪いことをやってしまったことは変わらないが、それを悪いことで終わらせず、そこから反省して償い、立ち直ることが大事だと思う。なので、悪いことをしてしまったが、それを自分で深く反省している人を貶してはいけない。また、勝手な偏見で人を軽蔑してはいけない。なおかつ、立ち直ろうとしている人が周りの人に頼ることができる。そういう社会になれば、更生できる、更生しやすい環境になっていくと思う。

四つ目は更生の仕方と更生した後の行動だ。一歩踏み外してしまうことは誰にでも可能性としてある。しかし、犯罪をしたということは被害者がいるということだ。それを踏まえた上で深く反省して罪を償うことが更生に大切だと思う。また、更生した後も更生しようとしている人のサポートができる。更生しようとしている人の気持ちは更生した人にしか分からないので、更生した人にしかできないことも多い。更生した人はこれから更生する

人にとって、とても重要な人物であると言える。なので、更生をすること、更生した後の行動がこれから更生する人に影響を与えることができる。

これらのことから、犯罪を減少させること、罪を犯した人達の更生には、人との関わりを持つことや適度に叱られること、軽蔑や偏見のない頼れる社会にすること、更生の仕方と更生した後の行動が大切だと言える。また、犯罪の減少と更生のためにできることを一人一人が考え、行動することが今後、明るい社会を築いていくことにつながっていくと思う。これらを踏まえて私は、私にできることを今後の学校生活の中でやっていきたいと思う。例えば、クラスで落ち込んでいる子に声をかけて寄り添い話を聞くことやとても怒っている子を落ち着かせて怒りを鎮めることなどだ。叱ることはできないけれど、人と関わることにおいてはできることがあるので、それができる人になっていきたい。

「人とのつながり」

小田原市立千代中学校
三年　神尾　静

私は今まで、犯罪についてあまり深く考えたことはありませんでした。ですが、この作文を書くにあたって、犯罪について調べてみようと思いました。

私には家族も、友達も仲間もいます。私の周りには自分を思いやって、支えてくれる人がいる。それがあたりまえのように思っていました。しかし、そうではない人も沢山いて、「自分を気にかけてくれる人はいない。周りの人にとって自分はどうなってもいい人間なんだ。」と思ったり、孤独を感じたりすることに耐えきれなくなって、間違った道を進んでしまう人もいることを知りました。そして、その人が罪を犯すと、世間からの目はより一層厳しくなりさらに社会から孤立して、再び罪を犯してしまう人もいることが分かりました。「自分はどうせ悪人なのだから、立ち直ることもできないのかもしれない。」と思っても、「そんなことはない。」と否定してくれる人がいないことは、きっと自ら命を絶ちたくなるくらい辛くて、苦しいことなのかなと思いました。

私は「どうしたらそんな苦しい状況の人が、減らせるのだろう、一人にならないようにできないのか。」と考えました。そのとき、頭に浮かんだのは、音楽でした。私は吹奏楽部に所属しており、昨年の7月、梅の里センターで開催された小田原地区保護司会主催の、「小田原市社会を明るくする運動　ホゴちゃん地域の集い」で演奏させていただく機会がありました。そのときは、緊張していてよく覚えていませんでしたが、母に「会場で聴いてた人、みんな楽しそうにしてたよ。」と後から言われて、嬉しかったことを覚えています。会場が穏やかな明るい雰囲気になり、中には

演奏後に「ありがとう」と言ってくださる方もいらっしゃいました。もしかしたらその中に昔、犯罪に手を染めてしまった人もいたのかもしれませんが、そんなことは関係なくその場にいる人全員が一体になっているように感じました。他の演奏会でも、聴きに来てくれた人は笑顔になってくれました。私は、音楽やスポーツなどには年齢や過去、人種、障害に関わらず人を明るい気持ちにして、つなぐ力があると思います。私自身も、吹奏楽部に入ったことで居場所や仲間が増えました。何かに夢中になって応援したり、楽しんだり、取り組んだりすると、きっとその人の周りには、仲間や味方になってくれる人ができます。そんな人ができたら、仲間を失うことが怖くて間違えることはそもそもなくなると思います。また、更生しようと努力している人に仲間ができて、もう一人ではなくなったら、誰かに心無い言葉をかけられてもきっとその仲間に支えられて、正しく生きていくことができると思います。最近は、スマートフォンやインターネットが普及し、匿名で無責任に人を傷つけることも簡単になっています。こんなときこそ、人との繋がりが大切だと思います。繋がりが大きくなれば、苦しい思いをする人が少ない社会になると思います。私も、人と接するときは、その人が過去に何をしたかではなく、今何をしようとしているかを見て、支えられる人になりたいです。

「挨拶と明るい社会の関係」

小田原市立泉中学校
三年　清水　杏奈

私達が日々行うことの中で、大切なことは何かと考えてみると私は挨拶だと思いました。私が思う挨拶とは、自分の体調を伝えたり、相手の気持ちを受け取ったりすることができるコミュニケーションツールだと思います。また、地域の人との挨拶は防犯対策になると考えています。

始めに「挨拶」を辞書で調べてみると「①人に会ったり別れたりする時に言うことば②はじめて会う人に自分を紹介すること③集会のはじめや終わりに、その場の人々に感謝やお祝いの気持ちを述べる言葉④手紙のはじめや終わりにかく言葉⑤相手に敬意を表すこと」と書いてありました。①と②の意味に私は自分たちが行っていたことが書いてあったのでとても納得しました。

私の学校では「挨拶ロード」という活動をしています。この活動は生徒会や委員会が中心となっておこなっているものです。月二回朝の七時五十分から八時まで当番制で行っています。地域のボランティアの方々や先生も参加し、とても盛り上がっています。挨拶ロード活動を始めた当初、人が沢山いて声を出すのが恥ずかしかったので、私は小声で挨拶をしていました。ですが、二年経った今では挨拶を交わすことが楽しくなり、率先してできるようになりました。挨拶をすると気持ちが晴れ晴れとして、一日が楽しく生き生きと過ごせるようになりました。

また、私の住む地域では挨拶が活発で、地域の方が毎朝の散歩時に小さな子どもや小学生に挨拶をしています。挨拶をすることで地域の人と顔見知りになります。そのため信頼感が生まれるので、防犯対策に役立つと思い

ます。毎日その人と顔を合わせて挨拶をすることは、安否確認に繋がっていると思います。そして、挨拶を交わすことで地域が活性化し、地域全体が明るく、楽しい雰囲気になると思います。そのために、私も地域の人に明るく挨拶をしたいです。

次に、犯罪数が少ない県について調べたところ、犯罪数が一番少ない県は鳥取県でした。鳥取県は小中学生に挨拶するように教育現場で力を入れているようです。そのため、地域内で顔見知りが増え、知らない間にいつもと違った異変に気付きやすくなります。そのようにすることで、地域全体に犯罪抑止力が生まれるのではないかと思います。すると犯罪者はいつもと違う事をしにくくなり、犯罪数が減るのだと思います。だから、神奈川県でも今まで以上に小中学生に挨拶を勧め、地域の色々な人と視線を合わせて、元気よく、笑顔で挨拶を交わすことが必要だと私は思います。

挨拶は、挨拶をするという行動そのものだけでなく、仕方も大切だと思います。例えば「ありがとう」という同じ言葉でも、ぼそぼそとうつむいて言うのと、視線を合わせてはっきりと言うのでは印象が違うと思います。はっきりと言われた方が、感謝の気持ちが伝わりやすく、言われた側も言った側もお互いに気持ちが伝わって嬉しくなります。「おはよう」という言葉も、相手が笑顔で明るく言うと、元気で今日も頑張ろうという気持ちがこちらに伝わり、暗く言うと体調が悪く悩みがあるのかなと感じてしまいます。

たった一言で思いが伝わる挨拶は、簡単なアクションでありながら非常に力のあるものだと思います。防犯対策となり、社会が明るくなっていくので、挨拶によって地域が活性化するのだと思います。私は、挨拶が自分の気持ちを伝えるコミュニケーションツールだということが改めて実感できました。これからも挨拶をはっきりと、笑顔で視線を合わせ

て言い、自分の気持ちをしっかりと伝えていこうと思いました。

そして挨拶を重ねることで、顔見知りで挨拶だけの関係から、簡単な世間話をする仲になったり、顔が見られないときに心配しあったり、何か困っているときに助け合うことができる関係に変化していくのではないかと思います。最近では、安全面で見知らぬ人に挨拶をしないようにする傾向がありますが、なんとなくいつも見かけている人と挨拶をかわし、人との繋がりをつくっていくことは、色んな人を知ることになり明るい世の中だけでなく、生きづらい人の助けになるのではないかと思います。

「ありがとう」で社会を明るくする

小田原市立城北中学校
三年　吉田　愛実

私達は成長していくにつれて自分のために誰かが支えてくれていることについて「それはあたり前だ」と思うようになってしまう。

私は幼稚園生のとき、初めて母に手紙をかいた。母は大喜びし、そのときから私は母に手紙をかくようになった。「ありがとう。」この言葉だけはどの手紙にも書くようにしていた。このときから私は「ありがとう」という言葉の大切さを知るようになった。

中学生になり新しいクラス新しい先生に出会った。ある日の掃除の時間に、私は誰も掃除していなさそうなところをほうきではいていた。するとある先生が私に向かって「愛実は偉いね。ありがとうね。」そう声をかけてきた。その先生にとってはそこまでおもみのない言葉だと思っていたのかもしれないけれど、当時の私にとっては感謝されることがあまりなかったのでとても嬉しかった。その日から私は誰かのためになることをしたいと思うようになり、ゴミ拾いやちょっとした気遣いなどあたり前だと感じていることをあたり前のように行動するようになった。

皆さんも誰かのためになることをしたい、もしくはしたと、感じるときはありませんか。小さなことでも構いません。例えば給食当番をしている時、多くの子が当番に対して「ありがとう」と言っているのをよく耳にします。他には今、戦争が起きているウクライナに対しての侵攻について社会の授業で、今の私達に何ができるのかを考えるときもあったのではないでしょうか。こういった、ありがとうの言葉を誰かに伝えること、言ってもらえるように行動することが現代の私達に必要とされることだと私は思います。

「ありがとう」という言葉を相手に伝えてもらったとき、嬉しい気持ちになると思います。これは「オキシトシン」通称「幸せホルモン」と呼ばれるものの分泌が活発になることでおこることです。嬉しい気持ちになるほか、ストレスの緩和・免疫力アップ、自律神経のバランスを整えるなどさまざまな効果があるのです。そうして考えるとありがとうという言葉は大きな言葉であり相手に伝えることで日々のストレスによって起きる犯罪や非行を防ぐことができ社会を明るくすることにつなげられるのではないでしょうか。そして、互いに感謝の気持ちを持ち伝え合うことでよりよい人間関係を築くことができるのではないでしょうか。私も実際に私のためにしてくれている人に感謝の気持ちを伝えているのですが、そうすることによって自分の良心に気づくことができ、日を重ねていくうちにあたり前だと思っていた小さなことにも感謝の気持ちを持つようになりました。

このように「ありがとう」というたった五文字の言葉には大きな意味があり、多くの効果を持っています。私達は今、色々な人に支えてもらって生きていて、とても幸せな環境で過ごすことができています。これをあたり前なことだと思うのではなくこの人達のおかげで自分の好きなこと、やりたいことができているのだなと感謝の気持ちをもって生活していけばきっと将来の私達も感謝されるような存在になることができ、現代から未来への社会のありかたは非行、犯罪のない明るい社会へとなっていくのではないかと私は考えます。

佳作作品

「挨拶の大切さ」

小田原市立白山中学校
三年　小野　誠太朗

僕は、学校に行く途中に挨拶をしています。中学三年生になるまでほとんど自分から挨拶をせず、お父さんやお母さんに「きちんと挨拶をしなさい。」と毎日のように言われていましたが、めんどくさいのとはずかしい気持ちでやりませんでした。

だけど、三年生になったある日から挨拶をするようになりました。それまでは、地域のおじさんやおばさんが「おはよう」「いってらっしゃい」とみんなに声をかけてくれていましたが、僕は頭を下げるだけでした。

挨拶を意識するようになってからは、学校でも先生や友達に挨拶をするようになりました。そのおかげで、自分や周りが明るくなり今では普段話さない先生や友達と話すようになっています。

あるとき、挨拶をしていると、僕は担任の先生に「いいことだね」と言われたり、地域の方には「君達や白山中学校の生徒はよく挨拶できているね、と校長先生に伝えておいてね」と言われました。これは、あまりほめられたことのない僕にとってとても嬉しかったことであり、中学校生活三年間で僕が一番自慢できることでもあります。また、夏休み前の三者面談で、先生から挨拶を聞いたお母さんは、びっくりしていました。

これらの経験をふまえて、僕は今後、他人に「挨拶をしなさい」と言われるより前に、自分から積極的に挨拶ができるようにしたいと思います。さらに、僕が今通っているサッカーチームでは、挨拶を大事にしているのでサッカーを通して、さまざまな場面で交流して、挨拶をするようにしていきたいと思っています。

挨拶は大人になっても使う大切なことで、

例えば、会社で挨拶をすると周りからの印象が変わるように、挨拶をすることでメリットがあります。その他に、大人だけではなく、どの年代も他者とのコミュニケーションがとれるようになり、自分の気持ちを表現することもできます。

このように、挨拶をすることによって、人間関係がスムーズになり、自分の意見も相手に伝えやすくなります。

実際に僕は、中学三年生になるまで今まで関わることのなかった子と同じクラスになって、たったの数ヶ月で、一緒に下校したり、放課後や休日に遊ぶような仲になりました。

この作文を通して、僕が伝えたいことは挨拶がどれだけ大切かということです。僕が今回経験したように、挨拶にはさまざまなメリットがあります。逆をいうと、挨拶にはデメリットは一つもないと僕は考えます。そんな挨拶は、ほんの数文字でできている簡単な言葉なので、挨拶をすることを他の中学生にも僕はおすすめします。

最後に、僕はこれからも自分自身のために沢山の人に挨拶をし続けるとともに、周りの人が笑顔になるように行動していきたいです。

「犯罪者の社会復帰に向けて」

小田原市立城南中学校
三年　脇　なずな

私は前科を持つ人が社会復帰し、明るい人生を歩むための方法を三つ考えました。

まず一つ目は、自分が行った事を完璧に理解してもらうことです。

実は、日本国内の犯罪者の再犯率は五十パーセント以上で、二人に一人は二度目の犯罪を犯しているというデータがあります。

私はそのデータを見て、まだ自分が犯した罪の重さに本当に気付けているのか疑問に思いました。

なので、私は、罪を犯してしまった大人が、少年刑務所にいる少年受刑者に対して、自分がしてしまったことやこれからどのような思いですごしていくのか伝え、宣言させるべきだと考えました。

自分の口から犯してしまった罪を語ることで、頭の整理がついてさらに罪への意識が高まると思います。

二つ目は積極的に職に就くことが大切だと思います。

なぜなら、再犯者の約七割が無職ということを知り、仕事を通して「人に認めてもらうことのうれしさ」を感じてもらうことで一人でも多く再犯させないようにしたいと思ったからです。

ですが、今の現状では、雇用者は、「信頼できないからむり。」といった意見も多いと思います。

でも、働くことを許さないかぎり、犯罪を犯したことがある人が働くことはできません。だからこそ雇用し、雇用される関係をつくることで少しでも心をゆるせると思いました。

社会に復帰させることで、再犯確率が減るので、一人一人が責任感を持つことも大切だ

と考えました。

三つ目は、刑務所の中で、小中高の過程を勉強することです。実際に長野県松本市にある桐分校というところでは、全国の受刑者の中で十分な教育を受けられなかった人たちが希望し、中学校の勉強を受けることができます。

また、この桐分校は旭町中学校の分校であるため、中学生の授業の様子をながめたり、一緒に校歌を歌ったりするなど、交流の場もあるそうです。

ある程度の知識があることで罪を犯すことも減ると思われます。

若者が犯罪を犯してしまう理由は、責任感が無いからだそうですが、はたしてそれだけで罪を犯してしまうのでしょうか。

いじめが起きたとき、いじめた当本人はたしかに責任感はないけれど、被害者に対して怒っていたり、やられたからやり返したり、ただ単に楽しいからといった理由も多くはないと思います。

一九五十年代ごろに連続殺人をしたウィリアム・ハイレンズ氏は、殺人をやめたくてもやめられなくなってしまい、ついには殺人現場にある口紅で、「これ以上だれかを手にかける前に、頼むから僕を捕まえてくれ。もう自分をコントロールできないんだ。」と書かれたメモが残っていたそうです。

このように、精神的に自分をコントロールできない人もこの世に存在するのです。

私が強く思っていることは、「自分でも本当にこんなことをしてもいいのかと思うことも大切だけれど、その近くにいる人たちやその周りの環境が一番大切。」ということです。

たしかに罪を犯してしまう人も相当強い思いがあると思いますが、その犯罪をして誰に得があるのでしょうか。

もちろん被害を受けた人は人生のどん底に落ちますが、罪を犯した犯人が一番損でしかありません。「自分はあの人を消せてうれし

い。」と思っている人もいると思うけれど、その人も心のどこかで「やらなければよかった」と思っていると思います。

誰もが犯罪しないもそうだけれど、犯罪させないために、一人一人がどう生きていくのか常日頃考え、この世界が幸せで満ちあふれてほしいです。

最後に、罪を犯してしまったから人生おわったと思うのではなく、前向きにすごしてほしいと思いました。

「挨拶が日本を救う」

小田原市立鴨宮中学校
三年　村山　壮介

皆さんの周りには思いやりがある人はいるだろうか。そして、思いやりがある人が必ずしも良い人とは限らないと疑ったことはあるだろうか。

先ほど挙げた二つの問いは誘拐などの犯罪を防ぐ上でとても大切になると考える。私は、それらの犯罪を防ぐ上で思いやりの真偽を見極めることを大切にすべきとも考える。

誘拐に巻き込まれる人の大半は気の緩みが原因であると思う。しかし、誘拐に自分からされようとは思わないだろう。そして、人は犯罪に巻き込まれないよう、常に防犯意識が出ている。しかし、それでも誘拐が撲滅されていないのは、人が常に持っている防犯意識がふとした拍子に崩れてしまうからだと考えている。例えば、見知らぬ人に優しくされたときや、優しそうな人に映画に誘われたときなど、人は無意識に防犯意識が薄れてしまうものだ。誘拐を狙っている人の多くは、そうした隙を狙ってくる。「思いやり」という言葉を悪用してしまう人間がいるというのは、一人の人間として許せない。

それは、私が体験した、ある出来事が多く影響している。

それは、小学五年生の時。祖母・弟と三人で日帰り銭湯に来ていたが、とある理由で私が一人になったことがあった。その時、知らない中年男性に声を掛けられた。その男性に「千円あげるよ」と言われた。その時の私は十歳。その時は誘拐を警戒していたため、特に応じることはなかったが、自分が幼かった場合を考えると油断はできなかったと思う。今回は私の事例を挙げたが、もしかすると同じ事があった人もいるのではないだろうか。

次になぜ誘拐をしたがる人がいるのかを私

なりに考察していきたいと思う。私は、金銭的な動機が一番多いと考えている。それは、金銭的に困っている時に一番てっとり早く金銭を手に入れられるのは誘拐だと思うからだ。確実にお金が手に入りやすいのもその理由だろう。もちろん誘拐はしてはいけない。そこで大切になってくるのは日常生活である。貧しいのかどうかは、誘拐に手を染めるか否かに大きく関わるのだ。

さて、先程までは誘拐に焦点を当てたが、次は犯罪という大きな括りで視野を広げてみよう。ぜひ皆さんも考えてみてほしい。「なぜ犯罪が無くならないのか」。私は、犯罪をしてしまう人がいる原因を考えてみた。私が考えた原因とは、バレなければ良いという他人を考慮しない心持ちや、人間関係が良好でないことから生じる孤独感だと考えている。この場合の解決策を考えてみたところ、挨拶が大切になってくると思った。皆さんは学校で挨拶ができるだろうか。できない人もいるのではないだろうか。私は、犯罪のない世の中を目指すには挨拶は欠かせないと考える。近年、挨拶ができない人をよく見かける。まずは私達の挨拶への意識を改めてみるのはどうだろう。それが社会を明るくする第一歩になるのではないだろうか。

「一言の重みを考えよう」

小田原市立千代中学校
三年　小酒部　夢叶

近頃、芸能人の自殺のニュースが多くありませんか？僕はそういうニュースを見るたびにとても心が痛いです。そのほとんどの原因が周りからのいじめや動画への誹謗中傷などが原因で起こっていて、そういう自殺を無くすためにどういう事に取り組めば良いかということに興味を持ちました。

ユーチューブのコメント欄を見るとたまに「つまらない」や「気持ち悪い」などのような誹謗中傷を見かけます。さらに芸能人のライブとかにとても酷い言葉をコメントしている人がいて、それを見て僕はとても反論したくなりました。芸能人の自殺の原因はほぼ誹謗中傷でその人のファンや親、友達がとても悲しみながら、「誹謗中傷は絶対ダメ」と言っているにも関わらず、まだ誹謗中傷してる人がいることにとても腹だたしく感じました。

僕は違う学校に友達がいるのですが、その友達も芸能人への誹謗中傷をしていて、注意しようと思いましたが、友達だし結構仲が良かったので、注意する勇気が出なくてそのまま言えずに終わってしまいました。今となれば注意出来なかった事をとても後悔しています。もし、その時に注意していれば、その友達はきっと、人の心の痛みが分かる人間になっていたかもしれません。

僕は妹と一緒にＳＮＳに二人で歌やギターの動画を投稿しているのですが、たくさん嬉しいコメントをいただいて、とても嬉しかったです。でも時には少し傷つく酷いことをコメントしてきている人がいて、僕はとても落ち込みました。今となっては何も根に持っていないけど、初めてそのコメントを見た時はとても傷ついて、悲しい気持ちになりました。一つの誹謗中傷だけでこんなに傷つくのに、

これを何回も続けられるとメンタル的にボロボロになってしまうことが想像出来ました。そしてこの時自ら命を絶ってしまう人の気持ちがよく分かりました。自殺してしまった人達は僕が言われた誹謗中傷の言葉よりもっともっと酷い言葉をずっと言われ続けていたと思うととても心が痛く、悲しくなってきます。何も罪のない人間を自殺まで追い詰めてしまうなんて本当に可哀想だと思うし、そしてとっても辛いです。

僕がこういった経験をした時に、周りに僕の辛い気持ちを聞いてくれる家族や友達がいました。周りの人たちは「気にするな」や「大丈夫だよ」などの言葉をかけてくれました。僕はこの言葉のおかげで気持ちがとても楽になりました。このように人は一人では生きていけません。たくさんの人達との関わりの中で生きていけると思うのです。一人では決して悩まず、落ち込まず、周りの誰かに相談して「助けて」と言える勇気も必要だと思います。

芸能人や友達への誹謗中傷を無くすための取り組みとしては、自分の周りにＳＮＳへ誹謗中傷している人がいたら僕は勇気を出して「絶対ダメ！」など呼びかけて少しでも誹謗中傷する人を少なくする事を考えて行動したいです。また悩んでいる人には優しく声をかけ、辛い気持ちを聞いてあげて励まし勇気づけてあげたいです。これ以上誹謗中傷で自殺する人を増やさないために「一言の重み」を考え行動できる人を増やして明るい社会にしていきたいです。

「生きやすい社会とは？」

小田原市立国府津中学校
三年　藤澤　美緒

私は、犯罪や非行を起こしてしまった人達の気持ちがどういったところから生まれてしまうのか不思議でした。それは、今まで私は犯罪や非行をしたいと思ったことがないからだと思います。

そんな私が犯罪や非行について考えるきっかけとなった一つの事件がありました。

それは、二〇二一年十月三十一日のハロウィンの夜、東京都心へ向かう京王線の車内で起きました。上りの特急電車が東京・調布市を走行中、「ジョーカー」にふんした男性が突然、乗客の男性を刃物で刺し、ペットボトルに入れたオイルを車内にまいてライターで火をつけました。ここまでの内容を見ると、この男性は、人を傷つけたいという思いでこのような事件を起こしてしまったように思えます。ですが、法廷で被告が繰り返し語ったのは「死刑になりたかった…」ということばでした。多くの人の命が失われることに対してどのように考えていたのか検察官に問われると被告は、「殺人を起こすことに直前までためらいはありました。できればそのようなことはしたくないが、死刑じゃないと死ねないので事件を起こすしかないと思いました。」という供述を残しました。

では、なぜ死刑になりたいと思ってしまったのか被告はこんなことを語りました。「自分の存在価値がわからなくなり、この先、生きていく意味がないと思い自殺願望を抱くようになった。」他にも、「自分のことを初めて評価してくれた場所」という職場を自分のミスによって異動を命じられるという出来事が重なり、過去に二度も自殺をしようとしてできなかったことを踏まえ、「死刑になりたい。そのために人を殺さなくてはいけない」と考

えるようになったと説明しました。
私はこれらの供述を聞いて、もし事件を起こそうと決めるときに誰か相談できる相手がいたら未来は変わっていたかもしれない。事件を肯定するわけではないが、生きていて辛い、不安、苦しいそういった気持ちになってしまったとき手を差し伸べてくれる人がいないという社会に私は怖さを覚えました。
同じような事件が相次いでいる今、こうした事件を防ぐために、社会としてできることはあるのでしょうか？自分なりに頑張ろうと生きてきた人達にとって普通の生活や幸せを求めた先が、犯罪や非行につながってしまうのはあってはならないことだと私は思います。ですが、見方を変えれば誰もがこういった事件を起こす可能性があり、身近に起こり得るということを私たち自身が受け止める必要があると思いました。
私がもし、生きる意味を失くしてしまうような状況に陥ったら一人でマイナスなことを考える前に身近な存在に助けを求め、話しを聞いてもらうという行動をとりたいし、相手がそのような状況にいる場合は、優しく寄り添い、聞いてあげられるような人でありたいと心から思いました。
犯罪や非行が起こってしまう前に、一人一人が相手との関わりを大切にして、自分や相手の気持ちに寄り添い「一人で抱え込まないこと」が重要であると思います。何気ない一言や地域の人と交わしたあいさつで救われる人もいます。だから私は、そういった小さな関わりを大切に日々を過ごしていきたいし、みなさんにも大切にしてほしいです。そしてそれが、犯罪や非行を失くす一つの鍵となってくれたら私はうれしいです。どうか、自分自身を責め、追い詰めてしまう人が一人でも減ることを祈っています。

「ちょっとした悩みごと」

小田原市立国府津中学校
三年　山内　楓音

あなたは何利きですか？私はこの質問をされると、とても困ります。私は両利きなのです。もともとは左利きでしたが、幼い頃、私は母に文字を書くのは右手のほうが書きやすいと言われ、鉛筆だけ右手で持つようになりました。私は十五年間生きていて、左利きは不便だと感じる場面が多々あります。

一つ目は駅の改札口です。駅のＩＣ改札機は右側にあるのがあたり前ですが、私たち左利きにとっては、とても不便なのです。私は、ホームへ入るとき、ＩＣカードをいちいち右手に持ち替えてＩＣ改札機を通っています。ここで、私がいつも思うことは、右利き用と左利き用の改札機をつくったらよいのではないかと思っています。そうしたら、右利きの人も左利きの人も不便、ストレスを感じず、スムーズにホームへと入っていけると思うからです。

二つ目は料理をするときです。私は夏休みや冬休みの長期休暇の時、お昼を作っています。包丁を使うときに不便を感じます。現在では左利き用の包丁が世の中に出回っています。ですが、私の家には右利き用の包丁しかありません。右利き用の包丁で左手を使って切るととても切りにくく、周りから危なっかしいとよく言われます。

三つ目は食事のときです。家でご飯を食べるとき、どうしても左側に座っている人に腕があたってしまいます。なので私は、ときどき右手にはしなどを持ち替えて食べるときがあります。こういう時、右利きだったらなと思ってしまいます。ですが、小さい頃に祖母に言われた「左利きは天才なんだよ。すごいね。」という言葉が今でも心に強く残っています。それを言われてから、左利きでよかった

なと思うようになりました。また、左右両方の手を使っていると、周りの人から「右も左も使えるんだ。すごいね。」や「うらやましいな。」と言われ、誇らしげに思うようになりました。それからは、その時々によって、左右を使い分け、順応させるようになりました。私のちょっとした悩みですが、世の中にはもっと生きづらいと感じている人が多くテレビでもよく見るようになりました。悩みに大きい、小さいもありません。私の様に何気ない言葉で救われることもあります。ＬＧＢＴ、障害、いじめ等当事者でないと分からないことが多くありますが、私はみんなが幸せに生きていける世の中になっていけることを心から願っています。

「挨拶をすることで」

小田原市立泉中学校
三年　和泉　圭祐

僕が考える社会を明るくする運動は「挨拶をする」ということです。挨拶をされて嫌な気持ちになる人は滅多にいないはずです。大きな声で挨拶すると気持ちいいと思うのです。

僕は中学2年生の頃に、学校の「あいさつ運動」に参加したことがあります。自分が挨拶したとき挨拶が返されたらうれしく感じて、返されなかったら少し悲しくなりました。挨拶を返してもらえないというのは、無視される、認めてもらえないという事と同じ意味なのではないかと思います。挨拶はお互いの存在を知り、認め合うことへの第一歩なのだと思います。家庭、学校、地域で、挨拶が気軽にできると、お互いの事を知るきっかけになります。そういった小さな認め合いが、非行や犯罪を減らすことにつながると思うのです。

非行や犯罪が起こる原因は様々だと思います。ニュースを見ていると、何でそんなことするのだろう？と疑問に思う事が多いです。でもたまに、この人がこういう事をしてしまう前に、「ちょっと待って、間違えているよ」と声をかけてくれる人がいなかったのかなと感じることがあります。そして、そもそも、もっと前から、そういったちょっとした一言が少しずつあったとしたら、どうだったのかな、とも思います。違う考え方を持つ人と関わることで、自分の間違えを知り、別の解決策もある事に気づけると思うのです。

そして、挨拶は社会に出たらもっと大切なものになると思います。社会に出たら、今よりももっとたくさんの人と出会うことになります。色々な年代の人や、それぞれ違う考え方を持つたくさんの人がいて、そういう人達と一緒に仕事をすることになるからです。

僕は空手を習っているので、いつも大きな

声で挨拶や返事をするように、と教わっています。だから声を出すことに慣れているので平気ですが、苦手な人もいるかもしれません。だけど、そういう時には勇気を出して声を出してみてほしいです。何度かやっていくうちに段々慣れて、普通にできるようになると思います。

そしてそれを習慣にすれば、今度はご近所さんと会った時に色々な話ができるようになるかもしれません。そういったコミュニケーションをとっていくことで、周りとの関わりが増えて、悩みや不安を一人で抱え込むことが少なくなると思います。

今まで僕は挨拶をするということは普通のことだと思っていたけれど、自分が思っていたよりも大切なことなのだと思いました。

小田原市社会を明るくする運動
中学生作文コンテスト 入賞作文集
令和６年１月

発行：第７３回小田原市社会を明るくする運動推進委員会
〒250−8555　小田原市荻窪３００番地
小田原市　市民部　人権・男女共同参画課　内
電話　０４６５−３３−１７２５
FAX　０４６５−３３−１８５１

“社会を明るくする運動”シンボルマーク

ひまわりの花を図案化したもので、太陽に向かって咲くひまわりが犯罪や非行のない明るい社会を築こうとするこの運動の趣旨にふさわしいことから選定されました。